

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立向島中学校)

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	授業改善	授業改善を目的とするALの取組と向島中学校スタイルの確立 学力向上プロジェクト委員会の活発化	学校生活の向上と改善のためのアンケート調査 全国学力調査質問紙
	家庭学習の習慣化	教養ICT機器活用 毎日の英単語プリント 学習確認プログラムの活用 自学自習ノートの活用	学校生活の向上と改善のためのアンケート調査 全国学力調査質問紙
	図書館教育の推進	家庭学習課題の教科・学 朝読書の取組 昼休みや放課後の図書館開館 図書支援員と連携した授業における図書館の活用	学校生活の向上と改善のためのアンケート調査 全国学力調査質問紙
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	毎日の全員清掃の取組 様々な学校や学年行事の取組	学校生活の向上と改善のためのアンケート調査 全国学力調査質問紙
	人権を尊重する意識の向上	人権学習 性教育 国際理解教育 道徳・教科を通じた人権教育	学校生活の向上と改善のためのアンケート調査 全国学力調査質問紙
	規範意識の育成	生徒会を中心とした様々な活動	学校生活の向上と改善のためのアンケート調査 全国学力調査質問紙
健やかな体	自他を大切に する態度の育成	生徒会活動の活性化による点検活動と呼びかけ・啓発活動	健康生活アンケート (小中連携) 全国学力・学習状況調査 質問紙 本校生徒の体力テストの実態(学校保健委員会)
独自の項目	生徒十訓の取組	生徒十訓の日 生徒十訓ばっちり週間	学校生活の向上と改善のためのアンケート調査 生徒十訓アンケート
	小中連携	小中合同研修会の実施 小中各種主任会の実施 オープンスクールの実施 小学生による体験授業・体験部活動の実施	



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年3月3日
アンケート結果・ 各種指標結果	評価者・組織	職員会議
	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
授業は分かりやすく工夫されている79% 授業では話し合い活動が取り入れられている83% 毎時間の授業で学習のねらいが示されている84% 家庭学習を毎日進んで行っている67% 学習確認プログラムを活用し計画的に学習している63% 朝読書や家庭で進んで読書をしている62%	3年生の進路希望実現に向けて高い学習意欲を示していた。 2年生の学習態度・意欲の向上が見られた。 Ipad教室の活用が進んできている。 家庭学習では、自学自習ノートに取り組み、学習確認プログラムの予習シートを活用できていた。 学力向上プロジェクトで研究を深め、全教科でALを授業改善の方法として位置づけるようにした。	ALを積極的に取り入れた授業改善を目指す。 授業規律の確立。 授業研修や授業公開を行い、より研究を深める。 学力向上プロジェクトをさらに機能させる。 家庭学習について、課題の質や量を学年と教科が連携しながら工夫改善を図り、自学自習ノートの活用をさらに進める。また、家庭とも連携を深める。 学習確認プログラムは、具体的な数値目標を持ち取組を行う。
温かな学校・学年・学級に近づいていると思う78% 学校生活全般として楽しく充実している83% いじめは絶対に許さないという意識である87% 他者を思いやるなど相手の立場になって考えた行動が出来ている77% 校則はきちんと守れている82% 先生や来校者への挨拶、礼儀、言葉使い、服装はきちんと出来ている82%	全員清掃の取組は伝統として定着している。 行事を通して、自分の居場所を学級や学年に見つけ、温かな雰囲気で学校生活を送れている。特に3年生を送る会については学年集団に一体感が生まれる場面が見られた。 規範意識や人権尊重の態度はおおむね出来ているという回答であるが、校則違反やケータイによるトラブルが多い。 道徳は、学年道徳や学年で担当の持ち回り道徳など工夫して取り組んだ。	生徒会活動の活性化を通して、生徒の自主的な高まりを求めたい。 コミュニケーション能力が高まるような取組や授業の工夫を行う。 道徳の時間を通して、今日的な課題や生徒の身近な問題について、共に考え行動が出来る学習計画を構築していく。 道徳の公開授業を積極的にに行く。
朝食を毎日食べていますか89% 平日ケータイ等の使用時間2、3時間以上35% 生徒十訓を意識して学校生活を送っている74% 生徒十訓を覚えた42%	ケータイの使用についての指導・啓発を行い、家庭学習との関連性の対策も行えたが十分な成果があったと言い切れない。 学校保健委員会で体力テストの実態について議論ができた。 生徒十訓の取組をさらに推進する。 小中合同研修会では、小中一貫教育校創設に向けて、具体的な課題部会を開催できた。各部会では活発な意見交流を行っている。	家庭との連携を深め、ケータイの使用については、情報モラルの指導内容の検討を行う。 生徒十訓の取組は、生徒のキャリア形成の視点からも重要な実践であり、引き続き活動を推進していく。 小中一貫教育校創設に向けて、取組の推進と連携をさらに徹底する。



学校関係者評価	
評価日	平成29年3月23日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
ALを積極的に取り入れた授業改善は、アンケート結果にも現れた。しかし、学習確認プログラム等の調査結果の数値が上がることは見られなかった。	家庭学習の環境や家庭教育力の向上に向けた、様々な啓発や支援に対して出来る限り協力していく。
学校行事によって、生徒の成長を感じられ、卒業式にその成果を感じた。引き続き保護者や地域に啓発する機会が必要である。	地域で生徒の活動の場を広げていくために協力出来ることは進めていきたい。 地生連と連携しながら啓発活動を進めたい。 地域や保護者の方たちに学校に足を運んでいただけるように様々な支援を行いたい。
小中一貫教育校創設に向けて、今後もより細かい動きに対しても情報交流が大切である。 生徒十訓の取組は大切であると思われるので、継続して指導に取り組んでもらいたい。	地域と学校の架け橋となり、より支援を行ってきたい。

3 総括・次年度の課題

・学力向上においては、3年生を中心として意欲的に授業に取り組める点はアンケートの結果から考察できたが、学習確認プログラムや全国学力・学習状況調査の結果に現れていない。今後も授業改善の方法を検討し、組織的・効果的にALに取り組むようにしていきたい。
・心の育成は、人として自立していくための根幹であり、重点化していかなくてはならない課題である。生徒十訓の定着や道徳教育や生徒会活動の活性化により計画的かつ創意工夫が必要である。
・すべての学校生活の基盤は学級であり、一人一人が認められ、自己有用感の高い学級には、温かさが有り、間違いなく学力向上に直結すると思われる。その学級作りを重要な柱とした取組を推進していきたい。